

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32616

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K20517

研究課題名（和文）西アフリカにおけるイスラーム系移民の危機回避に関する人類学的研究

研究課題名（英文）An Anthropological Study of Crisis Aversion among Muslim Migrants in West Africa

研究代表者

桐越 仁美 (Kirikoshi, Hitomi)

国土館大学・文学部・講師

研究者番号：70793157

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：現地調査および文献による調査を実施した結果、現在のガーナ各地に形成されているイスラーム系移民コミュニティ「ゾンゴ（zongo）」では、ゾンゴの首長であるマイギダ（mai-gida）あるいはサルキ（sarki）によって、危険因子の侵入抑制がおこなわれていることが明らかとなった。ゾンゴの首長は、ゾンゴ内でトラブルを引き起こしそうな人物に関する情報があれば、その人物を追放することができる。そのほかに、首長が担っているのは、ゾンゴの施設への投資である。これは移民コミュニティの人びとの生活の質の向上において大きな役割を果たしている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西アフリカでは、2010年以降イスラーム武装勢力によるテロ・誘拐事件が多発している。武装勢力の活動に対しては、アンチテロリズム（テロの防止）によるアプローチも重要であることが指摘されている。アンチテロリズムという語は、一般に政策面からの対応に用いられるが、住民が武装勢力との接触を回避し、イスラームの過激主義の侵入・拡大を防ぐこともアンチテロリズムとして有効であると考えられる。本研究の成果は、イスラーム系の移民は商人のネットワークを活用し、イスラームの過激主義の侵入あるいは拡大を阻止するようにも機能することを示すものであり、アンチテロリズムを検討するうえで重要な情報を提供していると考えられる。

研究成果の概要（英文）： This study aimed to examine the crisis-avoidance capacity of Islamic immigrant communities from two perspectives: (1) the penetration of governance into immigrant communities and (2) the internal structure and networks of immigrant communities. Field research and literature review revealed that in the Islamic immigrant zongo communities that have been formed in various parts of Ghana, the mai-gida or sarki, the head of the zongo, has been controlling the intrusion of risk factors as follows. The "mai-gida" or sarki, the chiefs of the dzongo, were found to control the invasion of risk factors by

In Ghana, the dzongo chief may expel a person who is likely to cause trouble in the dzongo, if he or she has information about such a person. In addition, the sheikh is responsible for investing in the zongo's facilities. This plays a major role in improving the quality of life of the immigrant community.

研究分野：地理学、アフリカ地域研究

キーワード：移民コミュニティ ゾンゴ イスラームネットワーク

1. 研究開始当初の背景

サブサハラ・アフリカ(以下アフリカ)におけるテロの発生件数は2010年以降に急増している(GTD)。ナイジェリア北東部を活動拠点とするボコ・ハラムは、政府や警察にとどまらず一般市民をも攻撃対象としており、子どもや女性による自爆テロを数多く引き起こしている。2015年以降に実施されたナイジェリア治安当局による掃討作戦によりボコ・ハラムは占拠地の多くを失い、その活動は制限されたものの、依然、チャド湖周辺地域ではテロ活動が頻発しており、一般市民が危険にさらされている状況にある。

イスラーム武装勢力については、国内政治の変動や国際関係から、その活動や成立背景の分析が加えられてきた。これらの研究では、イスラーム武装勢力の活動はイスラーム反体制運動を起源としているが、過激主義の浸透には政権のガバナンス不全による脆弱な農業や高失業率、経済格差の拡大などが大きく影響していることが指摘されている(白戸2017など)。植民地期以降、西アフリカの行政や教育、医療の機能は沿岸地域に集中したために、イスラームの人びとが暮らす内陸地域は周縁化し、貧困率が高く、各種サービスを十分に受けられない状況が続いた。近年はインフラの整備も進み改善の方向に向かっているが、内陸地域と沿岸地域との経済格差は現在でも大きな課題として残っている。西アフリカのイスラーム武装勢力の活発化は、このような社会の不均衡をひとつの背景としている。

人口の70%がキリスト教徒であるガーナでは、内陸地域にイスラーム系住民が居住し、周辺国から多くのイスラーム系移民・商人の流入がみられる。周辺国でテロが頻発している状況から、イスラーム武装勢力の侵入や武器の流入、あるいは武装勢力の影響を受けた攻撃の発生が懸念されているが、現在にいたるまでそのような事例は報告されていない。これには、ガーナ政府のガバナンスがイスラーム系住民にも行き届いている点に加え、イスラーム系の移民コミュニティにより危機回避が図られている点の2点が影響していると予想される。本研究は、ガーナ社会の備える過激主義の侵入・拡大を防ぐ機能のうち、イスラーム系移民による日常的な危機回避の実践に着目することとする。

イラク・シリア・イスラーム国(ISIS)やアルカーイダ系勢力による攻撃は世界各地でみられ、イスラーム武装勢力により提唱される「グローバル・ジハード」は現実のものとなりつつある。日本を含むアジア諸国にも多くの西アフリカ移民が進出しており、各地にイスラーム系の移民コミュニティが形成されている。人やモノ、カネ、情報が短時間で国境を越える現代では、西アフリカのイスラーム武装勢力の活動は容易に国際化する。ゆえに、ガーナを例にイスラーム系住民を取り囲む環境を詳細に分析し、過激主義の侵入・拡大を退ける社会構造について検討する重要性は極めて高いと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、ガーナ社会がいかにイスラーム武装勢力による過激主義の侵入・拡大を防止しているのかを検討することを最終的な目標として、イスラーム系移民コミュニティの危機回避能力に焦点をあてた分析を加えることとする。本研究の独自性は、分析の際に西アフリカの歴史的取引ネットワークに着目する点にある。

多くの研究は、イスラーム武装勢力の活動がイスラームのネットワークあるいは犯罪ネットワークのうえに成り立っていることを指摘している。攻撃の下準備では、イスラームのネットワークを利用し、隣接する国からイスラームを学ぶ子どもを誘拐することで、攻撃対象となる地域の情報を入手しているとされる(Ray 2016)。古くから取引が発展した西アフリカには、イスラーム商人による取引ネットワークが形成されている。この取引ネットワークは現在の人の往来やモノの流通に深くかかわっているだけでなく、ムスリムの交流や多様な情報伝達にも利用されている。イスラーム武装勢力のネットワークとこの取引ネットワークはどちらもイスラームという共通点をもつが、取引ネットワークとガーナ社会の紐帯を保つイスラーム系の移民コミュニティに、過激なイスラーム思想の侵入・拡大はみられない。本研究は、イスラーム系の移民コミュニティに過激なイスラーム思想の侵入・拡大を防止する危機回避の構造が存在すると想定し、ガーナ社会の安全保障の一端を担うであろうこの構造をつぶさにとらえることを目的とする。

シリアをはじめとした中東の紛争などを背景として、世界的にイスラーム系移民の増加がみられるが、イスラーム系移民への理解が十分に進んでいるとは言い難い。メディアの報道では移民の増加とテロの発生リスクを安易に結びつける傾向があり、ヨーロッパでは排外主義の高まりもみられる。しかし、こういった排外主義の高まりはイスラーム系移民の不満を増幅させるものであり、さらにリスクを高めることになりかねない。イスラームの人びとの実践を明らかにすることは、世界に進出するイスラーム系移民への理解を深めるとともに「グローバル・ジハード」のリスク回避へと貢献するものと考えられる。

3. 研究の方法

本研究は、イスラーム系の移民コミュニティにおける安定した食料確保や生計活動、各種サービスへのアクセス、危険因子の侵入防止が、危機回避に関与していると仮定する。ガーナ社会における過激主義の侵入・拡大の防止を検討するにあたり、移民コミュニティへのガバナンスの浸透と移民コミュニティの内部構造およびネットワークの2つの着眼点から、イスラーム系移民コミュニティの危機回避の実態を明らかにする。調査にあたっては、ガーナ南部の農村に形成された移民コミュニティを対象としたフィールドワークを中心に据え、広域調査と文献調査を並行しておこなう。

移民コミュニティへのガバナンスの浸透については、移民世帯と受入社会側の世帯の生活実態から、それぞれの生活の質に違いがあるのかを調査することで、イスラーム系の移民にも十分なサービスが行き届いているかを分析する。また、移民コミュニティの内部構造とネットワークに関する調査では、移民コミュニティとイスラーム商人、交易ネットワークを対象とし、移民コミュニティと受入社会との関係構築や商人の取引状況、移民コミュニティのチーフの役割から、移民間の情報伝達と新規参入者の受入過程を調査し、危険因子の侵入防止に関する分析を重点的におこなう。

4. 研究成果

本研究は移民コミュニティへのガバナンスの浸透と移民コミュニティの内部構造およびネットワークの2点からイスラーム系移民コミュニティの危機回避能力を検証することを目的とした。現地調査および文献による調査を実施した結果、現在のガーナ各地に形成されているイスラーム系移民コミュニティ「ゾンゴ(*zongo*)」では、ゾンゴの首長であるマイギダ(*mai-gida*)あるいはサルキ(*sarki*)によって、以下のように危険因子の侵入抑制がおこなわれていることが明らかとなった。

ゾンゴはもともと18~19世紀の交易において、交易拠点として発展を遂げてきた。ゾンゴにとどまり続けるマイギダは、強力なリーダーシップを必要とし、多様な商人からもホスト社会からも認められることが求められた。マイギダにふさわしい人物は、ホスト社会からの信用をもって取引を成功させることができる人物であるとされた(Curtin 1998、Lovejoy 1980)。現代のゾンゴにおいては、宿屋の主人ではなくゾンゴの代表者が受け入れ社会とゾンゴの懸け橋を担っている。代表者は民族を問わず選出され、ゾンゴの居住者と受け入れ社会の双方の信頼を得ている人物が選ばれる。

ガーナでは現代でも、都市内に形成されたゾンゴを中心にムスリム商人がある程度の自立性を保って商業活動に従事している。たとえば、現在のガーナの半落葉広葉樹林帯を拠点に勢力を拡大したアサンテ王国の王都であったクマシは、サバンナ地帯と半落葉広葉樹林帯、さらにはギニア湾沿岸部とをむすぶ八本の主要な経路の結節点として機能し、長距離交易における重要な中継地となった都市である。クマシの市場には多くのムスリム商人が行き交い、礼拝所なども整備されている。近くには大きなゾンゴが形成されており、多数のムスリム商人が居住している。ゾンゴ内にはサルキと呼ばれる役職を中心に据えた首長制が敷かれていることが知られているが、この政治システムはイギリス植民地行政のもとで形成されたものである(阿久津 二〇〇七)。ガーナの人びとは、「アサンテ王とゾンゴのサルキのあいだには特別な信頼関係があるために、ゾンゴの自治権はサルキに任されている」と語る。

周辺国でもみられるように、ガーナでは首長制度が政府の統治構造と並行して存在しており、主要な法制度として、英国の植民地期に由来するコモンローと固有の伝統的規範や慣習・慣例に由来する慣習法の二つがみられる。慣習法は一般的に、土地の所有、相続法、家族法をめぐる問題に適用される。首長は政治・行政に直接的に関与することはできないが、行政に協力することで地域開発などに貢献することができると位置づけられている。ガーナの土地法においては、土地はその土地に伝統的に居住する民族や氏族、家族に帰属するとされ、慣習法や慣習に基づき、首長や氏族長、家族長などが管理機能を果たす義務を負う受託者であると定められている(Land Act 2020)。そのため、サルキがいるゾンゴにおいては慣習法が適用されており、土地の管理やその相続に関わることはサルキに一任されている。また、ゾンゴ内で生じたトラブルの対処も首長(マイギダやサルキ)が担う。首長はゾンゴ内でトラブルを引き起こしそうな人物に関する情報があれば、その人物を追放することができることとされている。

そのほかに、首長が担っているのは、ゾンゴの施設への投資である。たとえばモスクやイスラーム学校などのゾンゴにおいて欠かせない施設は、ゾンゴの首長や有力者の出資によって建設されていることが多い。首長や有力者の出資によって、宗教の交流の機会や教育の機会が創出されている。これは移民コミュニティの人びとの生活の質の向上において大きな役割を果たしている。

このほかに、ゾンゴでは商人たちのネットワークを通じた情報共有がさかんにおこなわれていることも明らかとなった。たとえば、人びとは商人のネットワークを通じて特定の人物の評価を共有している。ネットワーク内部で共有されるのは基本的には商人の評価であるが、たとえばある人物にイスラーム武装勢力との関わりなどの噂などがあれば、彼らの生活を脅かすものとして、その噂は商人のネットワークを通じて瞬く間に各地のゾンゴへと拡散していく。一方で、夫と死別した寡婦など、農村社会で生活しづらくなった人びとの噂などは人びとの生活を危険

にさすものではないために、ゾンゴにまでは拡散しない。そのため寡婦の居場所として選択されることが多く、ゾンゴの住民間の相互扶助によって生活が成り立っていることも明らかとなった。

このように、ゾンゴでは危険な人物を特定し、さらに排除するための機能が備わっている。また、ゾンゴに居住する人びとの生活において、必要最低限の質が維持されるような体制が整っていることも明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 KIRIKOSHI, Hitomi	4. 巻 2
2. 論文標題 The Trans-region Movement of Seasonal Labour in Ghana: Settlement Formation of Populations in the Upper West Region and Trade Network	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	6. 最初と最後の頁 179-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51062/ascwp.2.0_179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 桐越仁美	4. 巻 12
2. 論文標題 ガーナ国内における季節労働の実態：アッパー・ウェスト州からの州外移住に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国土館人文学	6. 最初と最後の頁 41-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KIRIKOSHI, Hitomi	4. 巻 58
2. 論文標題 Tree Shape Classification and Land Management by Hausa Farmers in Sahel Region of Southern Niger.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 African Study Monographs, supplementary issue	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/244119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 桐越仁美・牛久晴香
2. 発表標題 北から南への流れを捉える ガーナの2010年人口センサスを用いて
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 KIRIKOSHI, Hitomi
2. 発表標題 The Trans-Region Movement of Seasonal Labour in Ghana: Settlement Formation of Populations in the Upper West Region and Trade Network
3. 学会等名 ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桐越仁美
2. 発表標題 西アフリカのムスリム商人による中国商人への商業ネットワーク拡大過程に関する考察
3. 学会等名 日本地理学会2021年春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 桐越仁美
2. 発表標題 西アフリカ商人と域外商人の接続 現代ガーナにおける商人のキャリア形成を事例に
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 八木 久美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 842
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 二宮書店	4. 発行年 2023年
2. 出版社 二宮書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 地理探究 教師用指導書	

1. 著者名 M. Takahashi, S. Oyama, H.A. Ramiarison eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 430
3. 書名 Development and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p> https://research-db.kokushikan.ac.jp/kouhp/KgApp/k03/resid/S000504 国土館大学文学部 地理・環境コース 教員のページ http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/Teacher/Kirikoshi/20_Kirikoshi.html 国土館大学研究者情報データベース https://research-db.kokushikan.ac.jp/kouhp/KgApp/k03/resid/S000504 国土館大学文学部 地理・環境コース 教員のページ http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/Teacher/Kirikoshi/20_Kirikoshi.html 国土館大学研究者情報データベース https://research-db.kokushikan.ac.jp/kouhp/KgApp/k03/resid/S000504 国土館大学文学部 地理・環境コース 教員のページ http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/Teacher/Kirikoshi/20_Kirikoshi.html 国土館大学 教員情報 https://research-db.kokushikan.ac.jp/kouhp/KgApp?kyoinId=ymbdoysggg 国土館大学文学部 地理・環境コース 教員のページ http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/Teacher/Kirikoshi/20_Kirikoshi.html </p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------